

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)朝日野総合病院透析・呼吸器	階数	地上4階		
建設地	熊本市北区室園町407番2 他23筆	構造	RC造		
用途地域	第一種中高層住居地域、22条区域、	平均居住人員	124 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年		
建物用途	病院、	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年6月 予定	評価の実施日	2013年11月21日		
敷地面積	21,164 m ²	作成者	伊東 正太郎		
建築面積	710 m ²	確認日	2013年11月25日		
延床面積	2,206 m ²	確認者	吉永 拓郎		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

84%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

77

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆
40点未満	☆☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)朝日野総合病院透析・呼吸	階数	地上4階
建設地	熊本市北区室園町407番2 他23筆	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居地域、22条区域	平均居住人員	124 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年6月 予定	評価の実施日	2013年11月21日
敷地面積	21,164 m ²	作成者	伊東 正太郎
建築面積	710 m ²	確認日	2013年11月25日
延床面積	2,206 m ²	確認者	吉永 拓郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	400%
②建築物の取組み	84%
③上記+②以外の	84%
④上記+	84%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 77

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 78	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 63
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 86	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 83

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

(仮称)朝日野総合病院透析・呼吸器センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境								3.0
1 音環境		2.1	0.15	2.4	1.00			2.1
1.1 騒音		3.0	0.40	4.0	0.40			
1 室内騒音レベル	共用部: 50dB、住居部: 40dB	3.0	1.00	4.0	1.00			
1.2 遮音		1.8	0.40	1.6	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	1.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		3.0	0.35	2.6	1.00			2.9
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 輻射変動・過渡制御性			-		-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-			
5 過渡・湿度制御			-		-			
6 個別制御			-		-			
7 時間外空調に対する配慮			-		-			
8 監視システム			-		-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.6	1.00			3.0
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	エントランス: 2.7%、居室: 5.1%	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口			-		-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30			
1 遮光器具のグレア			-		-			
2 昼光制御	共用部: 庇、住居部: 庇+カーテン	2.0	1.00	4.0	1.00			
3 開口部対策			-		-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.7	1.00			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 浮遊粒子状物質			-		-			
3 ダニ・カビ等			-		-			
4 レンジオール対策			-		-			
4.2 換気		2.0	0.30	3.3	0.38			
1 換気量	0.069(1/15以上)	3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能			-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画			-		-			
4.3 運用管理		5.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視			-		-			
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	1.00		-			
Q2 サービス性能			0.30		-			2.8
1 機能性		2.4	0.40	4.0	1.00			2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	個室10㎡以上		-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応			-		-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40			
1 広さ感・景観	天井高: 2.5m		-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			-		-			
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-			
3 衛生管理業務			-		-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31		-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用、E使用無し	5.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.4	0.19		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		
3	電気設備	地上設置、非常用発電設備	4.0	0.20		
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20		
5	通信・情報設備		3.0	0.20		
3 対応性・更新性			3.1	0.29	2.2	1.00
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	1.4	0.50
1	階高のゆとり		3.0	0.60	1.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	共用部:0.29、住居部:0.61	4.0	0.40	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	4.2	0.30	-	4.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=19.7%	4.0			
集合住宅の評価			4.6			
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水型・省水型設備の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	建材のグリーン購入法適用	5.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	軽天、軽鉄間仕切、トイレブース	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率の設備機器を採用	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	2.8
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		2.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・既存棟と連携された、地域に開かれた総合病院施設として計画した。

Q1 室内環境

- ・屋根及び外壁に断熱材を25mmを施工することとした。
- ・空調及び加湿器を設置し、快適な空間となるように配慮した。

Q2 サービス性能

- ・内装を特別な材料を使わず、一般的なPB下地クロス仕上げ、床に長尺シートとし、維持管理しやすい材料とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・近隣に配慮し、既存棟などと比べて差が大きくなるような外観とした。
- ・設備の室外機は多くは屋上設置とし、近隣に迷惑とならないようにした。

LR1 エネルギー

- ・LED照明などの効率の良い設備を入れ、省エネに配慮した。

LR2 資源・マテリアル

- ・節水型機器やグリーン購入法適用の材料を推奨し、資源の有効利用を図った。

LR3 敷地外環境

- ・近隣に配慮し、建物の高さを抑え、隣等間隔をしっかりと取る計画とした。

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階
建物名称 (仮称)朝日野総合病院透析・呼吸器センター新築工事

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		77.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				77.7	0.40	31.08
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数